



立夏の候、地域の先生方にはますますご清栄のことと存じます。日頃より患者様のご紹介・逆紹介において大変お世話になっており、厚く 御礼申し上げます。

今月は消化器内科の紹介をさせていただきます。

診療科紹介「消化器内科」



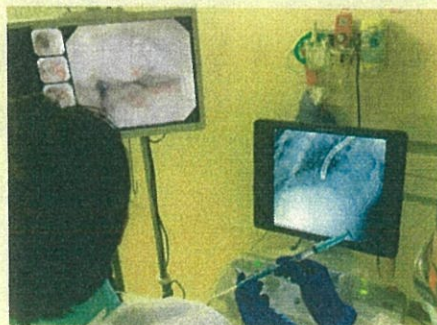
当院の消化器内科についてご紹介させていただきます。

2025年4月より消化器内科は堀井城一郎、浅野基、河原聡一郎、永原崇甫、光井佳代子、三上翔平、金 晟烈、中谷 明意、健康診断科の松下公紀を中心に診療を行っております。当院では**消化管・胆膵・肝臓の消化器疾患全般の治療**に取り組んでおります。

内視鏡検査・内視鏡治療について

写真1 内視鏡的静脈瘤硬化療法 (EIS)

消化管内視鏡手技については、早期がんを含めた腫瘍を内視鏡的に切除する内視鏡的ポリープ切除術や内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、胃潰瘍や食道静脈瘤からの出血を止血する内視鏡的静脈瘤硬化療法や内視鏡的静脈瘤治療術(EIS、EVL)をはじめ、内視鏡的胃瘻造設術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的狭窄拡張術(ステント留置術)、小腸バルーンアシスト内視鏡検査、小腸カプセル内視鏡検査など多くの検査・処置に対応しております。



消化管腫瘍、特に早期癌に対する内視鏡治療については、消化器内視鏡治療を専門とする堀井が中心となり、食道・胃・大腸のESDに意欲的に取り組んでおります。

胆膵内視鏡については常勤医の胆膵内視鏡専門医師である河原を中心に、常勤医師はもとより非常勤の胆膵内視鏡専門医師がサポートを行う万全の体制を組むことができております。超音波内視鏡下穿刺生検術(EUS-FNA)、内視鏡的胆道ドレナージ術や内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント留置術を数多く行っております。加えて、Interventional EUSも可能となっております。

Interventional EUSとは、胃や腸などの消化管を経由して超音波内視鏡(EUS)で腹腔内を観察し、腹腔内の病気に対して治療を行う手技のことです。閉塞性黄疸、腹腔内の感染した嚢胞や膿瘍などが対象疾患となります。超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)、超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ(EUS-CD)、EUS下膵管ドレナージ(EUS-PD)、EUSガイド下ランデブー法、内視鏡的ネクロセクトミーなどがその代表です。外科的に開腹することなく効果の高い治療が可能となるため、近年発展している低侵襲治療であり、当院でも導入しております。



写真2 内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)

炎症性腸疾患 (IBD) 治療について

当院消化器内科ではこれまでも潰瘍性大腸炎・クローン病といった難病の慢性炎症性胃腸疾患であるIBD治療に取り組んでおりましたが、現在さらに力を入れて取り組んでおります。本邦においてもIBD患者数は増加しており、潰瘍性大腸炎は20万人以上、クローン病は7万人以上と推定されており指定難病とされております。様々な研究が行われておりますが決定的な病因は未だに解明されておらず、治療が難しい病気です。しかし近年はその治療法が大きく進歩してきており、これまで使用されてきた5-ASA製剤やステロイド剤、生物学的製剤に加えて新たな生物学的製剤が次々と保険承認され、患者様に貢献することが出来るようになってきております。その一方で多様化する治療薬の使用方法についてはまだまだ議論が多く、専門性が要求される場面もあります。当院では岡山大学病院とも連携しながら、消化管治療を専門とする堀井を中心にIBD診療の充実に取り組んでおります。

当院の消化器内科について、特に重点的に取り組んでいくポイントについて紹介させていただきました。スタッフ一同、高いモチベーションをもって診療にあたっております。

地域の先生方からの患者様のご紹介に支えられ、当科の診療アクティビティ・内視鏡件数は年々高まってきております。岡山南地区の消化器診療をより良いものとするため地域の先生方との関連・協力をより深め、近隣の患者様に安心して診療を受けていただけますよう引き続き研鑽してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



写真3 内視鏡スタッフ 集合写真

【お問い合わせ先】

住 所：〒702-8055 岡山市南区築港緑町1丁目10番25号
T E L：(代表) 086-262-0131 FAX：086-263-2587
E-mail：kansapo@okayamah.johas.go.jp
担 当：岡山労災病院 地域連携室

